プール竣工に水泳部の意気あがる

石桜図書館の建物が完成し、開館準備が着々と進められていた昭和二九年の五月、こんどは水泳プールの建設計画が発表されて、生徒たちの胸をときめかせた。図書館裏から河北小学校前にかけての敷地に、全長二五メートル、幅一五メートルのプールを造るというものであった。当時、市内の高校でプールを持っているのは盛岡一高だけであり、岩高水泳部は遠く城南小学校や志戸平温泉プールまで出掛けて練習に励んでいたので、このニュースをいちばん喜んだのは水泳部員だった。

本校水泳部の歴史は古い。石桜会発足の当初から柔道・剣道・庭球・ラグビーなどの運動部と並んで水泳部があり、毎年春まだ浅い四月から赤ふんどし一本で高松の池に飛び込み、先輩の指導のもとに猛練習を重ねてきた。

戦後もいちはやく部活動を再開し、昭和二一年の市内中等学校大会や県下復活水泳競技会・県下中等学校水上競技会などで他校を圧倒する好成績を挙げている。以来、昭和二〇年代の活躍は目覚ましく、県内の大会に関する限り向かうところ敵なしの強さを発揮してきた。

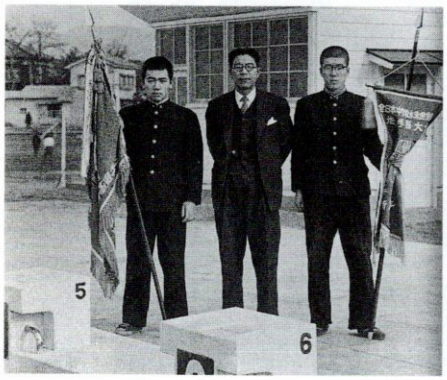
この輝かしい伝統を誇る岩手高校にホームプールが出来るというのであるから、まさに鬼に金棒と言ってよかった。

二九年五月に着工以来、一年五カ月の工事期間と四〇〇万円の総工費をかけて、三〇年九月三〇日に水泳プールが完成した。「岩手高等学校プール」と名づけられたこのプールは、七コース短水路のスマートな標準型で、深さは飛び込み用の最深部が二・一メートル、もっとも浅いところが一・三メートルであった。付属施設としてポンプ小屋と脱衣場があり、翌三一年一月一九日に日本水泳連盟から甲種競泳池として公認された。これは盛岡市内で二つめにあたる。

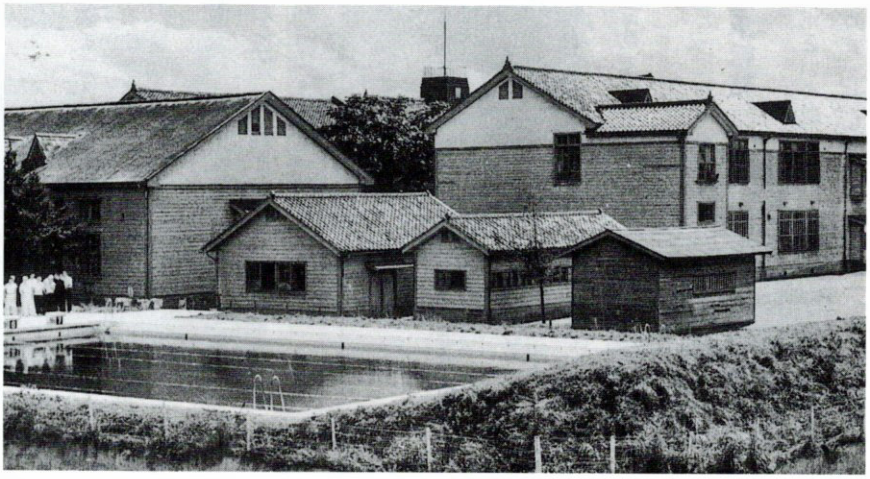
昭和三一年度の水泳シーズンから、緑の芝生に囲まれた岩手高等学校プールは体育教科の授業や放課後の自由使用に役立てられるとともに、水泳部の練習場として、また各種水泳大会の会場として、その機能を最大限に発揮した。ホームプールを得た水泳部は実力にいっそう磨きをかけ、昭和三〇年代から四〇年代にかけて揺るぎない黄金時代を築き上げるのである。

野球部や水泳部をはじめとする多くの運動部が活動に雄躍期の盛り上がりを見せるいっぽうでは、昭和三〇年代の前半に弁論部・演劇部・映画部・写真部・書道部・絵画部・英会話部・音楽部・吹奏楽部・生物部・化学部・物理部・地学部・郵便友の会・郷土研究クラブなど多彩な文化部が出そろい、研修に励んでいった。その努力が実って、

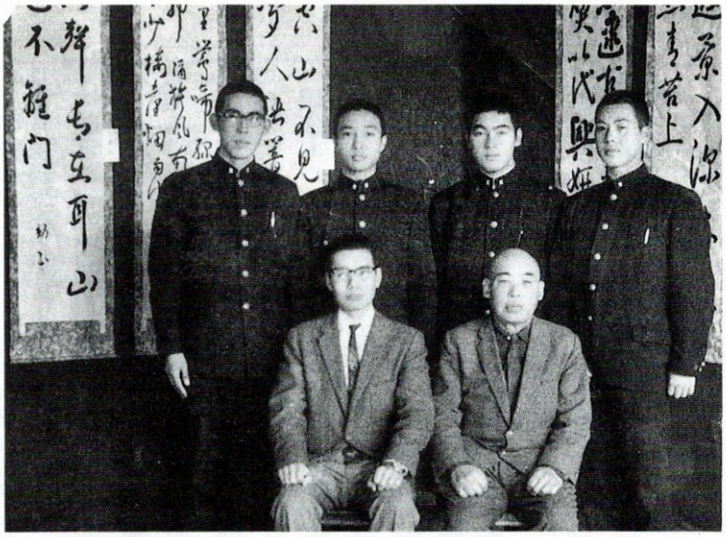
三〇年代から四〇年代にかけて次のような入



水泳部（昭和30年）



プール側から見た校舎（昭和34年）



書道部(石桜祭で昭和40年)

賞記録が生まれた。

「石桜新聞」が県下学生新聞コンクールで二年連続して最優秀賞を受賞。(昭和三〇、三一年)

生物部が「イモリの発生」について発表し、第一回日本科学技術賞最優秀賞を受賞。(昭和三二年)

演劇部が北海道東北学生放送劇コンクールに「牛(べこ)」で参加して第一位となり、文部大臣賞と民放賞を受賞。(昭和三三年)

英会話部が各種英語弁論大会に出場して入賞。(昭和三四、三五年)

生物部が「早池峯の蘚類相についての研究」を発表し、読売科学賞優秀賞を受賞。(昭和三五年)

絵画部員の作品「赤い塔」が、全日本学生美術展で特選に選ばれる。(昭和四〇年)

書道部員の作品が、大東文化大学主催の全国学生書道展で特選に選ばれる。(昭和四〇年)

演劇部の「三つのりんご」が全国ラジオ作品コンクール県予選で最優秀賞を受賞。(昭和四一年)

吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクール岩手県大会でCクラス最優秀校に選ばれる。(昭和四四年)

吹奏楽部が全日本吹奏楽コンクール岩手県大会でBクラス最優秀校に選ばれる。(昭和四七年)

以後、現在にいたるまでの各運動部・文化部の活躍ぶりは、第三編の「クラブ活動各部の活躍」をご覧いただきたい。